

## (2)挨拶

真砂 充敏 (田辺市長)

本日、第2回防災教育推進連絡協議会が、この和歌山県田辺市で開催していただきますこと、本当に意義深く思っております。と同時に、皆さんのお越しを心から歓迎申し上げたいと思います。

みなさんがお越しのこの施設は、新しく改築になったばかりの『田辺スポーツパーク』といい、全体一帯が総合運動公園になっています。来月の9月26日に開催される国体に合わせて、県と一緒に整備した施設でございます。今日はちょうど県の陸上の大会も開催されています。今後、全国から多くのスポーツマンを迎え、この施設を中心にスポーツ交流を盛んにしていきたいと思っております。



真砂 充敏 市長

今日の防災教育の会議は、日頃、片田先生にご指導いただいている地域のみなさんが連携して開催しているとお伺いしております。田辺市も片田先生に防災教育をお願いして3年目になり、大変お世話になってございます。田辺市は合併して10年になりますが、地域が大変広いです。面積は1,026km<sup>2</sup>で、近畿で最も広く、和歌山県の約4分の1が田辺市になります。そのため、津波の被害だけでなく、4年前には台風12号によって、土砂災害・風水害・洪水による被害も発生いたしました。あらゆる災害が田辺市内に懸念されるということで、「防災」はまちづくりの大きなテーマになっています。

片田先生は、防災教育を通じて、“どういうまちづくりにしていくのか”“どういうふるさと教育をするのか”というところを求められています。私はその点について大変共感を覚えておまして、全幅の信頼をおいて片田先生にお任せをしています。田辺市は、防災担当部署を“防災対策課”から“防災まちづくり課”と改名をしました。名前を変えただけで喜んでいるのではなくて、この名前の通りに中身を変えていくために、人員も増員してやっつけていこうと思っております。

国も地方創生ということで対策を打ち立てていますが、まちづくりには人口減少やいろいろな課題があります。私は大きく二つにわけて「攻め」と「守り」というような表現をしております。「守り」というのは、もちろんベースに“安心安全なまち”というのがなければ、何も次のステップがないわけです。そういう意味では、この「守り」の部分として、いかに災害に強いまちをつくっていくために、“教育を通じて、地域の防災力につなげていくのか”が大きなねらいだと考えております。

いずれにしても、こうした機会にこの会議が、本市で開かれるというのは本当に意義深く思いますし、タイムリーだと考えております。実り多い会議となりますように、そしてまた、それぞれの地域の皆さん方のご活躍を、そして防災力の向上を心から祈念申し上げましてご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

中村 久仁生 （田辺市教育委員会 教育長）

私たちの田辺市においでいただきまして、ありがとうございます。田辺市の取り組みについては、市長からご紹介をいただきました。私からは、学校教育について、どのような取り組みをしているのかについて、少しご紹介いたします。

市長も申しましたとおり、田辺市は非常に広範囲でございます。大きく分けると、沿岸部分、中山間地域、山間地域の三つになり、それぞれの土地に歴史と伝統がございます。市内には、現在、小中学校在が 41 校ありますが、その 41 校の学校それぞれに防災担当教員を位置付けてございます。

そして、その担当教員の皆さん方に知恵を振り絞っていただいて、三つのゾーンの防災教育のための授業計画を作成していただいております。こういう防災にかかわる指導の手引きは、行政がコンサルなどに外注をして、出来上がったものをみんなで一斉に使うことが多いのですが、私たちは自前のものを、その地に住む教師たちによって作り上げています。田辺市には非常に熱のこもった先生方が数多くおられます。その先生方によって、現在 2 年間、このような取り組みを続けています。そして、出来上がったものを教育委員会、市へ提出いただいて、今後のそれぞれの大きな実践の基にしようということで取り組みをしているところでございます。

何はともあれ、片田先生は日本の防災教育の第一人者であります。その第一人者である片田先生をお迎えして、この研修会が開催できるのは、この上ない喜びであります。また、今年の釜石市に続いて、二番手として田辺市で開催されるというのも非常に大きな意味をもっているのではないかと考えております。この二日間で、私たちの実践をしっかりと提起をさせていただいて、ご参加いただいた皆さん方からご意見をいただき、より強いもの、より正確なものへと導いていただけたら、と非常に期待をしております。

本日は二つのパネルディスカッションが中心になりますが、明日は昭和の南海大地震で大津波による被害を受けました新庄地区の視察が予定されております。そこでは、直接、被害に遭った長老の方からの報告をいただきます。また、新庄中学校が長いこと取り組んでこられた『新庄地震学』という取り組みの紹介として、実際に授業を見ていただきますので、皆さん方からアドバイスをいただけたらと思います。

本日は本当にご苦労さまでございますけれど、私たち一人ひとりが全力で皆さん方をお迎えしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。



中村 久仁生 教育長